

交換の實際に就き技術上の説明をなしたるは一同の感興を引けり。歸途某生の批評に曰く「あれは咽喉から出る聲で御腹の中から出る聲ではありませんあれでは音楽の先生に叱られます」と又曰く「非常に早口ね」

それより一同天文臺に強行々軍す。蓋し前週に參觀を依頼したるに器械の据附中とかにて謝絶せられたるも單に外部より様子を見るかそれも許されなければ夕日に映る富士の山でも眺めやうとてらば遠足の積りにて押し懸けて行きたり。幸教官の知人在りて同氏に案内せられ後庭の赤道儀を始め本館の子午儀(成る程修理中)クロノメーター分館の赤道儀等を觀たり。歸途芝公園を逍遙して日暮るゝ頃歸校せり殘て星を見やうといふものは一人もなかりき。

日記の一節

在米 保井 コノ

十月九日 午前七時十五分エングルウット發との掲示を見て少し早すぎる様なれどもと思ひつゝ行く事に定める

十月十日土曜 朝六時に起されて早々に食事をすます出てゆくに早しと思ひてこの間にと時計を前に置いて友達に手紙を書く六時三十分催促をせられて出てゆく雨ふる事烈し見合すにしても停車場の様子にしておひて「レインコート」を着てゆく五十五町目から電車で行くがよろしかる

べしと言はれしも教室に用事ありしと一方にはオーバーサンより此邊の地理はもつと悉しいといふ心持もあつて方角をかへ大學を抜けて直にカッタージグロウヴの電車道に出る寫眞機は邪魔になりさうなりし故教室の部屋に残す、電車に乗れば同級の人二人ありお早う如何でせうと云ふサアといった儘隣の席に腰をかけて行く六十三町目の角で乗りかへてエングルウードに着くコールスコードウエル兩教授既にあり女は自分と今一人ある許りミス、ローはと問へばコードウエル氏は雨にぬれるがいやで來ないんだらうと言はれる

日本では世話した人が世話せられて汽車にのる此線路はコンフィールド許りコーンを山のように積みあげた所もある小さな畑は黍穀を刈るけれども大きい所では其儘に置くと友達は説明をする小麦の芽のはへた所もある今頃は日本では土曜の夕方で明朝は高尾に五時十五分發などゝいつて居る人もあるかも知れないなどゝふと思ひ出す、驛毎に車掌が名を二度いつては Don't forget your point といふ日本の電車でお忘れものゝない様にと車掌がいつたと思つて可笑しがつて居ると友達 He Should say 'Don't forget your umbrella' とつたので遂にふき出す

目的の停車場に着いたので皆下りやうとするとコードウエル氏は今一つ乗り越せといはれるやかで其處について下りる十五六人の人が二組に分れる是は Forest ecology の組と Geographis Botany の組とか分れたのである自分はコールス氏に従ひてゆく是は Geographie Botany の組である

も女の人の方が男より多いのに今日は二人ですかといふ雨が恐ろしいからでせうと口まで出たけれどもよす道の悪い事夥しいアメリカは道が良いといふ勿れ田舎道と來たら随分！靴が皆ぬめり込みさうコールス先生サツサとゆかれる大忙きでついてゆく、やがて森についた頃には降る事／＼それでもコール氏は傘御携帯なしで大きなカバンをさげてテク／＼餘りひどいので大きなオークの蔭で休む男の學生が先生に傘をさしかけて居るコール氏は Rainforest だといつて笑はす此頃の御講義が恰度熱帯地方に多くあるレインフォレストの所なので一寸しやられたのである此先生のしやれは有名なもの、そろ／＼觀察にとりかゝる

Black Maple 木の肌が比較的滑かで葉は此通 Mesophytic の特徴をもつて居ると葉を取つて示される Sugar Maple を折つてと男の學生に言ひつけられて折りとつた枝をとつて比較して御覽なす。White oak は Red oak と比較して肌が太分粗である yellow oak は西部に多いので東には殆ないことにも少いのだと手近に一本あつたのを示されて説明せられる Linden も説明の例を洩れぬ、下草を見る Asarum Canadense, Wild ginger の腎形の葉を取つて是は常緑のもの此通り厚い葉をして居ると言はれる皆でつまんで見る、澤山に周圍にある Poisonivy の葉を説明されてからかぶれるといけなから觸るなといはれる Xanthoxylum americanum が熱帯には常緑に此邊では落葉する事をいはれて御講義にあつた事の例を引かれる、そしてポイズンアイヴィの葉の薄い

の比較して説明せられる Smilax も時には落葉性で時に常緑になる他の一例だと側にあつた葉を引張りつゝいはれる

Blue beech, Ironwood, (Carpinus caroliniana var.) の葉を見また果實をとる、日本でイヌシデの枝を引張つてとつた高井戸の道を思ひ出す

Ash の説明をされる White ash の皮の色は黒だといはれる Euonymus atropurpureus の葉を説明せられる果實はなかつたがヒロハノツリバナに似て居ると思ふそれからまた下草に移る Euonymus も Under growth の一つであるミヅヒキの葉のメソフィチックな事として果實の特徴をとかれる皆で面白がつて觸つて見る、雨は益降つて来る、スハマサウの葉をとつて常緑である事を示される何故かオークの下に多く見ると言はれる春か美しいだらうと想像する日本のお正月否十二月の末に出る緑田の事が目の前に出て來さうであつた Bishop's cap (mitella) が唯一の Xerophytic の葉をもつものだと説明せられる種は分なかつたけれども salix の芽出しを示されて此様に落葉に保護されて居るといはれ是は Winter annual の例であつて冬に緑でも常緑といふ事は出來ないといはれる

White oak の一つ著しいものに出逢ふ普通にオークは餘り高くないものだけれども此様に込み合つた所では時に此様に高くなるとして示される直径が何れ位だと言つた時に日本から持合した

巻尺が用をして周圍三メートル、七ある事を知られた、なる程余程高い所迄枝が出て居ない *State* で保護しないかなどの言葉も出る流石にアメリカと思つたのは或學生がイクラ位するかといった事である百弗を越すたらうなど、もいつたがコールズ氏は知らないと言はれる

Campanula americana が花を持った殆唯一のものであつた他には花をもつたものは最早ない、*Menispermum* が熱帶的の型のもたといはれる、アハタチサウの花の萎んだのがある *Poke weed* (*Asclepias phytolacoides*) の果實と葉との説明をされるカメメヅルのあの川の縁にあつた事を思ひ出す雨がまたひどく降る *Linden* の *Circle* をしたのがある是で *Red wood* の *Circle* が中央の親木からの *Second growth* から出来る有様の説明をされる併し *Linden* の *Circle* は實際に出来るのが常かどうかは知らないと付加へられるヨセミテを見なかつた事を残念に思ふ

Philix の芽が出てゐる是か來年の春に此芽から花芽が出ると説明をして示される、すぎごけの群落の美しいのがある先生はまるい美しい一つをとつてカバンの中に入れられるニハトコの葉ウドの葉も説明の例を洩れぬ *Staphylea trifolia* の實を採るミツバウツギよりも寧ろ形はフウセウカツラに似て居る種子が落ちて中がカラ／＼と鳴る皆面白がつてとる

Locust tree の大きいのが五六本是は移したものだと思ふがそれにしては大きすぎる、でないなら珍らしいものと話される間に雨がまた澤山に降り出すまた *oak* の下でやすむ此時に *Botrychium*

のフユとナツとか一所にあるのを見るフユは寧ろ *Dry klav* にあるのであるか此様な所で兩方を同時に見るのは面白いといはれる

牧場の鐵條網をぐるり／＼歸途につく或所でエビネらしい蘭の一群を見る、是は珍らしい度々／＼に來てもはじめて見るのだが絶やさないう様にしたいものだと言はれる、やまうつばらしいものを見る *Wild onion* の果實か黒い種子を蟹の目の様に出して居る美しい黄葉の落ちたのはいつかの文展の春草の落葉をつくりそれにはホーソーンの赤い實はなかつた、コーンズ氏は *Jungle* の説明をせられる一人の學生は印度から出たといふ(印度人ではない)そして *tropical Jungle* の様だといふ、ホーソーンの實を皆拾つてたべる、いつか、滿州の御話を學會で伺つた事を思ひ出す、是は *poisonous* でないかと或友達がいつたのも尙彼地を思はせた停車場近くで川の橋を渡る白雲の鵲橋の様にユラ／＼して恐ろしい程であつた

驛近くでコールドウェルさんの組に出逢ふ皆澤山に採集したホーソーンの實を見せる或人は大きいのを自慢に分けてくれる、汽車が來て歸つたのは二時手を洗つて日本服を着てランチを食べて後で *Bath* をとつて終つたのが三時随分ぬれることウエースト迄びしょ／＼になつた様の氣持がした翌日ミスローに教室であつた何故入つしやらなかつたときいたら何故あの雨に入つしたかと反問せられた是で此二人が勉強して居る心持の違ひがわかるとつく／＼と思つた此通信をよまれる人にもわかるであらうか